

150th Anniversary 清央小だより



令和6年度 第34号
2025. 3. 7

教 育 目 標	「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」 ・自ら学び工夫する子ども (考 え る) ・元気でがんばる子ども (鍛 え る) ・礼儀正しく思いやりのある子ども (思いやる)
------------------	---

※ 本文は、ユニバーサルデザインのフォントを使用しています。
※ ホームページに掲載する際は、画像を一部加工することがあります。

夢プロジェクト報告会

3月4日(火)から、クラスごとに2回目の夢プロジェクト報告会が行われています。

改めて、この活動は、子供たちが自分で目標を立て、それを実現するよう頑張るといふものです。報告会では、その成果を伝えて「認定証」をもらいます。2回目は私が各教室に出向き、一人一人の頑張った内容を聞き、私から直接認定証を手渡します。

一人一人の報告を聞いていると、それぞれが自分の目標を持ち頑張っている姿が見て取れます。報告会は年2回ですが、目標を立てて取り組むのが2回ということではなく、子供たちは一つ達成することに新しい目標を考え、一つ一つ達成していきます。

どんなことを頑張っているのか、ぜひご家庭でも時々聞いて、一緒に達成できたことをほめてあげていただけたら幸いです。

次年度も、引き続き実施していく予定です。どうぞよろしくお願いいたします。



この時期に思うこと

3月に入り、卒業や修業が近づいています。子供たちも、入学や進級をしてから、約1年になります。子供の成長をつぶさにみていると、例えば1年生は、4月、5月の頃に比べれば、授業態度や学校での生活の様子もしっかりしてきています。どの学年もすっかりお兄さんお姉さんになっていて、成長の早さに驚きます。

学校では「学年」という概念がありますが、これはあくまで学習の内容上の区切りであって、子供たちの心身の成長には学年は関係ないものだ、つくづく思います。本当は、年齢というの、そうなのかもしれません。子供は、**学年や年齢で「階段状」ではなく、緩やかに登っていく「坂道状」に成長していきます。**ですから、よく「〇歳までに〇〇ができないといけない」とか「何年生なのに〇〇ができない」といった言い方は、あまり適切ではないのでしょう。

「発達段階」という言葉がありますが、この文言はある年齢にふさわしい発達した段階があると捉えられ、年齢や学年相応の成長が見られないといけない、といった誤解を生みます。それを真に受けた親や、場合によっては子供も不安になるという懸念がありました。文部科学省では、ある時期から「発達段階」ではなく、**個々の成長に応じた「発達の段階」**という言葉を中心に使うようになりました。「の」が入っただけで大きく意味が異なるのです。

とはいえ、学校では時には、当該学年にふさわしい行動や考え方を教えていくことがあります。集団生活を学ぶ場である学校では、周囲の仲間と協力しながら、自分自身を高めるための目標としてもらうためです。そうすることで、加速度的に成長することにつながります。実際に、学校では行事などを通して、急激に成長する児童の姿がたびたび見られます。**個人差はあるにせよ、どのお子さんも着実に成長していることは、間違いのない事実です。**

今年度もあと少しになりました。保護者の皆様も、お子様の1年と一緒に振り返ってみてください。



Gemini (生成 AI により作成)

※その他の学校の様子はホームページでも掲載しています。 URL: <http://www.ueis.ed.jp/school/kiyohara-c/>

(文責: 校長)

